

第6学年1組 外国語活動指導案

日 時 平成26年6月19日(木) 第5校時

場 所 ユーアイルーム

指導者 鈴木 桃子、ダーリーン シマダ

1 単元名 みんなの得意なことを見つけよう Lesson 3 「I can swim.」

2 単元について

(1) 単元の目標

- ・自分や友達のできることについて、積極的に伝えたり、尋ねたりしようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・「できる」「できない」という表現に慣れ親しむ。
(外国語への慣れ親しみ)
- ・外来語として身近な生活になじみのある英語や、外国でもそのまま使われている日本語があることに気づく。
(言語や文化に関する気付き)

(2) 単元の目標に対する児童の実態と、講じる主な手立て

本学級の児童は、1年生から外国語活動に親しみ、どの子も外国語活動を楽しみにしている。男女ともに明るい性格で、代表として人前に出たり、発表したりすることに関心が高い児童が多い。外国語活動以外の授業では挙手が多く、話し合い活動も好きである。アンケート調査の結果、34%の児童が外国語を習っており、英語教室で習っていない表現や、新しい活動を取り入れると、聞き取ったことをすすんでメモしたり、熱心に発音練習をしたりする姿が見られる。また、外国語活動が好きな理由に、59%の児童が「新しいことを覚えられるから。外国のことが分かるから。」と答えている。このように、知的好奇心の高まりにより、もっと外国語や外国の文化を知りたいと考える子が多い反面、21%の児童が、多様な表現につまずきを感じ、外国語を話すことに自信をもてないことが分かった。その理由には「言うのが難しいから。」「覚えられないから。」「言っていることが分からないから。」が挙げられた。

4月の単元「天気や月、日にち」においては、お天気レポーターになって各地の天気を調べるアクティビティや、歌に合わせてグループで月の呼び方を発音する活動を行った。目標を達成するため、男女問わず積極的に話しかけたり、ポーズをつけながら大きな声で月の呼び方を発音したりと、活動を楽しむ児童の姿が多く見られた。一方、単語練習では熱心に発音をしていたにも関わらず、アクティビティでは、インタビューに参加できず、数人でかたまって教室の隅に座り込む児童の姿も見られた。さらに、グループのメンバーと一緒に発音する活動でも声が出せない児童がいた。それは、アクティビティや発表に向けて、単語や表現を練習する時間が不十分であることや、学ぶ楽しさや必要性を感じられないことが原因であると考えた。

以上のことから、児童に無理なく、楽しみながら、自然に表現を習得できる学習の流れを設定することと、新しいことや相手のことを知りたいという好奇心を満たす言語活動を取り入れる必要があると考えた。

- ・扱う単語を厳選し、段階的に増やしながら、チャンツやキーワードゲームなどで、繰り返し何度も練習できるようにする。
(外国語への慣れ親しみ、言語や文化に関する気付き)
- ・友達と同じことや違うことを調べたり、人物当てをしたりするアクティビティを設定し、友達に聞いてみたいという気持ちを高め、積極的に会話に参加できるようにする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・アクティビティをポイント制にしないことで、質問や答えを落ち着いて聞き合い、会話の楽しさやお互いの良さに気づけるようにする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語への慣れ親しみ)
- ・ALTと個別に話したり、質問したりする時間を設定し、自分の表現に自信をもてるようにする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(3) 扱う言語材料について

本単元では、I can~/can't~などの表現を扱い、自分自身の「できること」「できないこと」と、友達の「できること」を考え、伝え合う。活動を通し、人にはそれぞれに得意なことや、努力していることがあることを知り、互いの良さに気づくことができるだろう。単元のはじめには、「できること」をテーマにした、簡単なスピーチをすることが目標であることを伝え、活動を進める。活動の目標を意識すること、自分の「できること」を友達と考えることで、自分の特技や良さに気づくと同時に、積極的に発音練習に取り組んだり、自信をもってコミュニケーション活動に参加したりすることをねらいとしている。また、soccer、basketballのように、外来語としてなじみのある言葉がある一方、kendama、karateのように日本語そのままの表現が使われていることに注目することで、様々な国の文化がお互いに影響し合っていることに気づくだろう。さらに、単に「～ができる。」と表現する日本語と違い、スポーツ、演奏、料理や水泳など、種類によって play や the、do といった言葉を使い分ける必要があることから、言語の違いについて考えるのに適していると考えられる。

(4) 抽出児

抽出児童Aは、明るく元気で、みんなに注目されることが好きな児童である。学芸会で役を演じたり、人前で歌ったりすることも心から楽しみ、何事にも一生懸命に取り組むことから、たくさんの友達に慕われている。Aは英語を習っていないが、アンケートに、外国語活動を「まあまあ好き」、理由に「外国のことが分かるから」、好きな活動は「英語を使った歌やゲーム」と答えている。Aが大きな声で歌い、発音するおかげで、外国語活動の時間も和やかな雰囲気を進めることができる。しかし、たくさんの単語や複雑な表現を扱うときには、「なんて言うか分からない。」と言ってアクティビティに参加することにためらい、他の児童らと座り込んでしまうこともある。また、Aが座り込んでしまうことで、一緒になって活動をやめてしまう児童もいる。本単元では、外来語としてなじみのある言葉、児童の生活に身近な言葉を少しずつ学習し、何度も繰り返し練習をすることで、Aが無理なく単語や表現を使えるようにし、自信をもって発音できるようにしたい。そして、Aが活発にアクティビティに参加する姿を見せることで、学級全体の児童が積極的に話すことの楽しさを感じられることを期待している。

3 単元計画 (5時間完了 本時 2/5)

Part	活動内容と主な言語材料
1	<p>○学習の見通しを持ち、I can~/can't~の使い方を知る。 Hi, friends! 2 p.10, 11 【Who am I? ゲーム】</p> <p>I can~/can't~. play baseball, soccer, table tennis, kendama basketball, badminton, play the piano, recorder ride a unicycle, do calligraphy, use an abacus, swim, cook</p>
2 (本時)	<p>○尋ね方と答え方を知る。 Hi, friends! 2 p.12 【里町探偵団ゲーム】</p> <p>Can you~? Yes, I can. / No, I can't. play the drums, do karate, speak English, dance</p>
3	<p>○友達のできること、自分のできることを考え、スピーチを作る。 ・ALTと一緒に考える。 【里町探偵団ゲームその2】</p> <p>play softball, foot baseball, draw</p>
4	<p>○友達のできることを伝えるスピーチの練習をする。 ・友達になりきってスピーチし、グループ内で聞きあう。</p> <p>Hello. My name is ~. This is ME! Thank you.</p>
5	<p>○友達のできることを紹介する。 ・他のグループ、全体に向けてスピーチする。</p>

4 本時の指導

(1) 目 標 できることを尋ねたり、答えたりする表現を使い、相手が誰か考えることができる。

(2) 学びを深めるための手立て

- ・モデルトークを見せることで、できることを尋ねたり、答えたりする表現に気づくようにする。
- ・チャンツやキーワードゲームなどで、新出表現を繰り返し何度も練習できるようにする。
- ・人物当てをするアクティビティを設定し、積極的に会話に参加できるようにする。

(3) 指導過程

過程 Stage/time	指導過程 Procedure		
	Students	HRT	ALT
あいさつ 歌・復習 Warm-up 10min.	<p>1 あいさつをする。 Greeting. "sing"</p> <p>2 前時の復習と新出単語の練習をする。 Review</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTのあとに続いて発音する。 <p>(復習) I can~/can't~. <u>play</u> baseball , <u>play the piano</u> , <u>do</u> calligraphy , <u>use</u> an abacus</p> <p>(新出) <u>play the drums</u> , <u>do</u> karate <u>speak</u> English , dance</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく英語であいさつしたり、歌ったりすることで、英語に慣れ親しもうという雰囲気を作る。 ・ALTにゆっくり、はっきりと発音してもらおうことで、正しい発音に慣れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする。 Say hello. ・口の形をよく見せ、発音していく。 Pronounce the words with showing the shape of your mouth.
課題 Focus 10min.	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">相手のできることを知るには、英語で何と質問するのだろう。</p> <p>3 できることの尋ね方を考え、表現を練習する。 Practice the words by chants</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこかにcanを使いそうだな。 ・Yes, we can. はよく聞くよ。 ・モデルトークを見て、確認する。 <p>・音楽に合わせ、ALTのジェスチャーと発音を真似して練習する。</p> <p>A: Can you play baseball? B: Yes, I can. A: Can you play the piano? B: No, I can't.</p> <p>・CAUGHT OUTゲームをする。 (ALTが選んだキーワードを発音したらアウト)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとモデルトークを見せ、できることの尋ね方や、答え方に気づくようにする。 <p>HRT: Can you play baseball? ALT: (子どもA役) Yes, I can. HRT: Can you play baseball? ALT: (子どもB役) No, I can't.</p> <p>・チャンツやキーワードゲームで何度も練習することで、自信をもてるようにする。</p> <p>◇練習の様子 (関心・意欲・態度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルトークをする。 Demonstration ・動作をしながら発音する。 Demonstrate using with gestures. ・A、Bを繰り返す。 Repeat "A" and "B" part.

<p>アクティビティ Activity 20min.</p>	<p>4 里町探偵団ゲームをする。 Today's game</p> <p>A&B: Hello! (じゃんけんが勝った方から尋ねる)</p> <p>A: Can you play the piano? B: No, I can't. A: Can you dance? B: Yes, I can. A: Can you play baseball? B: Yes, I can. A: ○○先生? B: Yes. / No. (2人とも当たったら)</p> <p>A&B: Thank you! Goodbye.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加藤先生は、英語の先生だから、英語を話せるかな。 ・川出先生は、運動が得意そうだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとモデルトークを見せ、ゲームのルールを説明する。 <p>○相手のできることを質問して、正体を推理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出会った人とじゃんけんをする。 ・勝った方から質問をする。 ・Can you~?を使って3つ質問したら、相手の正体がだれかを聞くことができる。 ・当たったら交代する。 ・当たらなかつたら、新たに1つ質問をしてから再度答える。 <ul style="list-style-type: none"> ・隠れている人数が少ない人物がいることを知らせ、児童の関心を高める。 ・友達の質問をきちんと聞いて答えている児童や、聞き取ったことをもとに自分の力で考えている児童をほめ、最後まできちんと会話ができるようにする。 ・質問の仕方を忘れてしまった児童や、不安そうにしている児童と一緒に発音し、自信をもって会話ができるようにする。 <p>◇活動の様子(慣れ親しみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物について分かったことを尋ね、先生たちの意外な一面に気づいた児童をほめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルトークをする。 Demonstration <ul style="list-style-type: none"> ・活動に入り、子どもたちと話す。 Enjoy the game with students.
<p>あいさつ ふり返り Ending 5min.</p>	<p>5 ふり返りカードを書く。Review</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できることを尋ねるときには、Can you~?ということが分かりました。 ・美波先生が野球をするなんて知らなかったな。 <p>6 終わりのあいさつをする。 Goodbye</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次時での活動内容を伝え、次回への意欲を高めることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語であいさつをする。 Say goodbye.

(4) 評価

できることを尋ねたり、答えたりする表現を使い、相手が誰か考えることができたか、活動の様子やふり返りカードの記述から判断する。